

全国在宅療養支援診療所連絡会 第3回全国大会 プログラム別詳細

タイトル	新たなステージ、新たな課題
日時	平成28年3月13日 9:00-12:00
会場	第1会場 (501)
座長	新田國夫 (全国在宅療養支援診療所連絡会 会長/新田クリニック)
演者	今村聡 (日本医師会 副会長) 鳥羽研二 (国立長寿医療研究センター 理事長) 清水嘉与子 (公益財団法人 日本訪問看護財団 理事長) 迫井正深 (厚生労働省医政局地域医療計画課長) 永井友二郎 鈴木央 (第3回全国大会長/鈴木内科医院)
企画趣旨・概要	<p>在宅医療推進は新たなステージに入ったといっても過言ではないと考えられます。まずは日本医師会の全面的な協力をあげることができます。さらに、2012年の在宅医療連携拠点事業における推進のポイントが見えてきたことも大きな成果でした。地域の多職種とフラットな関係性を作るための拠点(地域を看る目を持った看護師を中心とした専門職チームによる)設置、地域リーダー、多職種が一つのテーブルを囲む研修会の開催、情報共有のためのツールづくり、地域包括ケア推進、町づくりへの深化などが指摘され、数々の先進地域が育ってきました。</p> <p>かつては想像もできなかったような形で、在宅医療という治し支える医療が新たなステージで推進されるようになりました。</p> <p>しかし、新たなステージでは新たな課題も生じてきています。例えば地域医療構想と在宅医療の関係性はどうなるのでしょうか。2025年をあと9年後に控え、推進のスピードは間に合うのでしょうか。中央では在宅医療の必要性は理解されているものの、地域の中ではまだまだ理解されていないという声もあります。かかりつけ医の在宅医療参入の重要性も指摘されていますが、その歩みは決して平たんではありません。訪問看護の未来はどうなるのでしょうか。地域医療構想という激変の中で看護師にどのような変化が生じるのでしょうか。次の世代に向けて地域医療がどのように変わり、在宅医療に何が求められるようになるのでしょうか。地域包括ケアや町づくりとの接点をどのように進めるのでしょうか。市民との協働が可能になるのでしょうか。市区町村や都道府県行政とどのように協働していくのでしょうか。</p> <p>挙げたらきりがなくらいに様々な新たな課題が生じてきているのです。これらとどうかわり、どう乗り越えていくのか、それぞれの立場で考えてみたいと存じます。</p>

(敬称略)